

てっぽうでんらいきこうひ 鉄砲伝来紀功碑

分類：有形文化財

町選定文化財

天文12年（1543）8月25日、本村前之浜に異国船が漂着し、乗っていたポルトガル人から鉄砲が伝えられました。また、この出来事は、ヨーロッパ人が日本に初めて上陸し、西洋の文化と日本の文化が初めて接触した出来事でもありました。

この日本の歴史に大きな影響を与えた記念すべき事実を後世に伝えるため、西之青年会が中心になり、地区民の協力を得て、大正10年1月、門倉岬に鉄砲伝来紀功碑を建立しました。

碑の題字は種子島守時の書、裏面の碑文は文学博士西村時彦（天囚）、書は日高實芳です。碑文には、鉄砲伝来の由来を記し、末尾に門倉岬からの眺め、鉄砲伝来の功績及び天囚の西之についての思い出を記しています。そして、最後は西之地区民に対する感謝の意を表し、「百世の下、斯の貞石を視よ」と結んでいます。



鉄砲伝来紀功碑

西之地区

町選定文化財

鉄砲伝来紀功碑

また、昭和9年12月15日には、本村の瀬の浦（門倉岬の東北約200m）の丘の上に「鉄砲伝来・葡国人上陸之地」の碑も建立されました。表面の題字は種子島時望の書、碑文は当時の熊毛支庁長の徳田富実の選、書は西村織部之丞の子孫の西村時教です。

鉄砲伝来はわが国に技術革新をもたらし、産業振興に貢献しました。それだけでなく、鉄砲という新兵器の登場で、戦国時代に終止符が打たれ、平和を招来する原動力となりました。

中世から近世に歴史が大きく転換する契機となったこの鉄砲伝来は、西之村の地頭西村織部之丞が、乗船していた明国人の五峯と砂上で筆談し、その重要性を認め、早馬で赤尾木城に急報したことに端を発するのです。



鉄砲伝来葡国人上陸之地の碑